

# 1964 ▶ 1970

昭和39年—昭和45年

## 2代目武藤貞の苦労人人生がスタート

初代武藤貞英は、東京五輪の64年、福岡市西新下田町134で新たに看板を掲げた。「有限会社武藤工業所」と組織を変更した。この年、長男の現社長貞が大阪の松下工学院を卒業、福岡に帰り入社、18歳だった。福岡市では、同年、新博多駅の地下と駅前の各ビル地下を結ぶ西日本初の地下街ができ、NHK福岡放送局がカラーテレビ放送を始めた。当時の主要取引先は、大成建設、鹿島建設、大林組、清水建設、竹中工務店、藤田組、間組、戸田建設など大手ゼネコンばかりで、その看板は今も守り続けている。

業界では、66年、発泡ポリエチレン製バックアップ材（丸棒タイプ、旭ダウ製）の使用が始まった。

68（昭和43）年1月19日、武藤貞英社長の死去に伴い、入社4年目の長男武藤貞が同年4月30日、2代目社長に就任。大手ゼネコンと取引できるのれんは引き継いだものの借金もあった。若社長の苦労人人生が始まった。業界では電動式仮設ゴンドラが開発（日本ビソー）された。福岡では、赤軍派によるよど号事件が発生。米軍F4ファントム戦闘爆撃機が九州大学構内に墜落した。

70年、武藤工業所初の慰安旅行は佐賀県呼子。その後、長崎県壱岐（72年）、山口県秋吉台、湯田温泉（74年）、京都、奈良、伊勢（75年）と続く。研修旅行と呼称が変わってから韓国・釜山（86年）、サイパン（89年）、香港（96年）、沖縄（2000年）、韓国済州島（01年）、

年	ムトウの動向
1964年 (昭和39年)	・4月10日 武藤貞英 ㈱武藤工業所に組織変更 福岡市西新下田町134 取締役 野田 勇、武藤八千代 事業種目 特殊防水加工工事 出資金 500,000円
1965年 (昭和40年)	・現社長 武藤 貞 入社（当時18歳）
1966年 (昭和41年)	・当時施工単価 外部 10×10m/⑦70円 内部 10×15m/⑤55円 ・主な仕入先 大日本化学商事（D.N.Tコーク） 昭和化工（フジシール、エバーシール）
1967年 (昭和42年)	・当時の現場員（社員） 野田恒忠、竹畑靖彦、古賀勇三、吉田陸夫、野田広治、武藤貞、桜井正卓、 楳原征雄
1968年 (昭和43年)	・1月19日 武藤貞英 死去（享年50歳） ・4月30日 武藤 貞 ㈱武藤工業所 代表取締役就任
1969年 (昭和44年)	・先代社長の死去に伴い従業員数、売上ともに激減する 現場員合わせて10名からの再スタートとなる
1970年 (昭和45年)	・慰安旅行（呼子） ・2代目社長、武藤貞（当時23歳）逆境を乗り越え売上を大幅に伸ばす

グアム（04年）、ハワイ（06年）など。  
社員旅行は、従業員の明日への活力となった。



名称：熊本県庁舎（熊本市水前寺6-18-1）  
竣工：1967（昭和42）年  
施工：鹿島建設  
コーキング



当時の先代社長（武藤貞英）



事務所前にて現社長（武藤貞）を囲んで（1970年）



名称：福岡電報電話局（天神ビル）  
竣工：1970（昭和45）年  
施工：清水建設  
コーキング